



株主の皆さまへ

第158期事業報告書

平成17年1月1日から平成17年12月31日まで



代表取締役会長
大石 司朗

代表取締役社長
岩崎 清悟

目次			
ごあいさつ	1	連結財務諸表	13
特集 さらなる成長ステージへ	3	単体財務諸表	16
トピックス	7	株式の状況	17
商品・サービスのご紹介	9	会社概要	18
当期の業績	11		

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

当期(158期)のガス販売量は、家庭用の堅調な伸びに加え、大口産業用需要の新規開拓や周辺都市ガス事業者への卸供給が好調に推移し、前期に比べ15.0%増加の6億21百万m³となりました。しかしながら、前期に完成した高圧輸送幹線「第二駿河幹線」に係る減価償却費の負担増や、下期に原料価格が上昇したことなどにより、連結当期純利益は前期に比べ14.6%減少の31億円となりました。

当期末の配当金につきましては、昨年に引き続き1株につき3円50銭とさせていただきます。

なお、本年3月30日付で、代表取締役社長大石司朗が代表取締役会長に、専務取締役岩崎清悟が代表取締役社長にそれぞれ就任いたしました。新たな経営体制のもと、天然ガス拡販による成長戦略を引き続き強力に推し進め、自由化を勝ち抜く企業体質の構築に努めてまいり所存でございます。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも変わらぬご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役会長 大石司朗
代表取締役社長 岩崎清悟

業績ハイライト(連結)

	2005年12月期	2004年12月期	増減率
売上高	671億円	600億円	+11.9%
営業利益	66億円	76億円	13.4%
経常利益	58億円	69億円	14.9%
当期純利益	31億円	37億円	14.6%



～ 岩崎新社長に聞く ～

静岡ガスの将来の成長に向けた取り組みについて、このたび新たに社長に就任した岩崎清悟より、ご説明いたします。

2005年11月に「中長期ビジョン」を見直した背景を教えてください。

当社は、2002年に「中長期ビジョン」を発表しました。これは、2015年に向けて当社が進む方向を示したもので、ガス販売量の増加と計画的なガス供給インフラの整備により、LNG（液化天然ガス）基地やパイプラインの効率を高め、より競争力のある企業体質の構築と持続的な成長を目指したものです。

この3年間で、ガス販売量は想定どおり順調に増加し、主要インフラの整備も計画どおり進んでいますので、基本的な戦略は、2002年当時と全く変わっていません。

しかしながら、策定後3年を経過し、当社を取り巻く事業環境も変化していることから、2005年11月に中長期ビジョンの見直しを実施しました。

事業環境の変化とは、具体的にどういうことでしょうか。

一つは、原油価格の高騰です。2004年後半から急騰し、現在も高値で推移しています。一方、LNG価格の上昇は原油価格ほどではありませんので、灯油や重油などの石油系燃料に対して、天然ガスの競争力が高まっています。

もう一つは、温暖化防止への取り組みの本格化です。2005年2月に「京都議定書」が発効したことにより、各企業でCO₂削減対策が本格化しています。例えば、工場のボイラー燃料を石油からCO₂削減効果の高い天然ガスに転換したり、省エネ性の優れたガスコージェネレーションシステムを導入するといった取り組みを、多くの企業で進めていただいています。

一方、電力との競合はあらゆる分野で激しさを増しており、特に家庭用分野でのオール電化の攻勢は、大変な危機感を持って受け止めています。

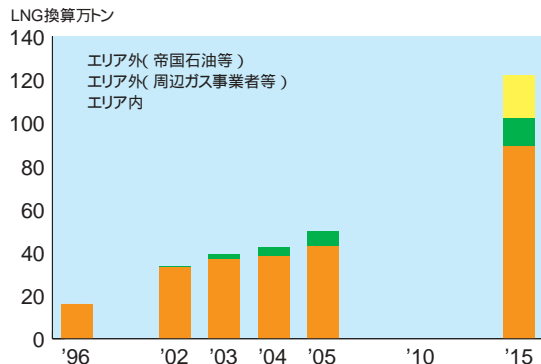
今後のガス販売量は、 どのように見込んでいますか。

先に述べた環境から、産業用の新規開拓が前倒しされ、周辺のガス事業者さんへの卸供給も当初の想定を上回る拡大が見込まれることから、ガス販売量の増加は速いペースで進み、当面の目標とする「LNG100万トン体制」の実現も1年前倒した2011年と想定しています。

一方、家庭用ガス販売量の伸びは、当社供給エリア内の人口に減少が見込まれ、加えて、オール電化の攻勢も激しくなっていることから、微増にとどめています。

なお、オール電化の攻勢に対しては、むしろ、ガスの良さをお伝えするいい機会と捉え、エリア営業体制によりお客さまに体感いただく取り組みを進めていきます。

中長期ガス販売目標



ガス販売量の増加に向けた インフラの整備状況を教えてください。

静岡 - 富士間を結ぶパイプライン「第二駿河幹線」は、2004年7月に完成しました。これにより、静岡県東部地域に向けたガス輸送能力が大きく向上しました。また、帝国石油(株)、東京ガス(株)との連携による「南富士幹線」(富士 - 御殿場間)も2004年5月に着工し、2006年12月の完成を目指して、工事は順調に進捗しています。

さらに、LNG受入基地の拡張について、当社の子会社である清水エル・エヌ・ジー(株)袖師基地の拡張計画が具体化し、2006年4月の着工に向けて手続きを進めています。



LNG基地拡張計画について 具体的に教えてください。

袖師基地には、現在2基のタンクがあり、その容量は合計で17万7千キロリットルです。しかしながら、この容量では将来のガス販売量増加に対応することはできません。このため、第3号LNGタンクの増設を2005年11月に決定しました。建設するタンクの容量は16万キロリットルで、2010年から運用を開始する計画です。また、LNGを液体から気体に変えるための「気化器」も3基増設し、

2009年より順次稼働を開始します。これにより、LNG貯蔵能力はほぼ倍増し、ガス送出能力も向上するため、中長期ビジョンで掲げるガス販売量の増加に対しても、安定的にガスを供給することができます。

なお、袖師基地の主要設備は、予想される東海地震の揺れや津波にも十分耐えることができる設計となっており、今回増設する設備にも同様な対策が実施されます。



LNGタンク

マイナス162度と超低温のLNGを貯蔵する地下式タンク。地下式であるため、万一の場合にも、LNGが地表に漏れない構造になっています。

LNG気化器

パネル状になった管内にLNGを流し、外側から海水をかけ温めて、LNGを気化します。海水を利用するため、大気汚染の原因となる物質は排出されず、海水が汚染されることもありません。

第3号LNGタンク増設予定地

12月に実施した増資の目的は？

当社は2005年12月に、550万株の増資を行い、約42億円の資金を調達しました。調達した資金は、第3号LNGタンクの建設に充当します。

第3号LNGタンク増設を始めとする袖師基地の拡張は、当社の今後のガス販売量拡大に不可欠なインフラ整備であり、これへの投資は、当社の持続的な成長の基礎となるものです。

最後に株主の皆さまへ メッセージをお願いします。

今回の増資には、募集を大きく上回るお申込みをいただいたと聞いております。当社の将来の成長に対し、皆さまから大きなご期待が寄せられているものと、身の引き締まる思いです。

中長期ビジョンの達成に向けて、今後も天然ガスの普及拡大に邁進するとともに、グループを挙げて地域のエネルギー供給に取り組んでまいります。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



社長プロフィール

岩崎清悟（いわさき せいご）

生年月日...1946年10月8日

出身地...静岡県

入社年...1969年

就任日...2006年3月30日

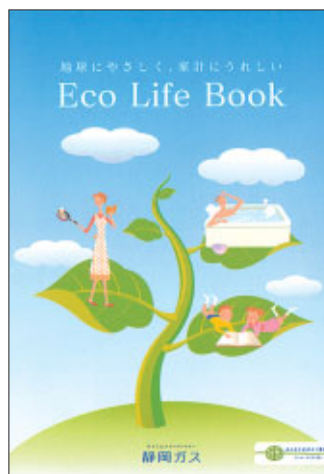
出身大学...早稲田大学 法学部

趣味...ゴルフ

「Eco Life Book (エコライフブック)」を発行

静岡ガスは、地球にやさしく、家計にうれしい新しい快適のカチを提案する冊子「Eco Life Book(エコライフブック)」を作成しました。冊子では、ガスコンロの火加減やお鍋の選び方に気をつけること、シャワー時間を短くすることなどにより、CO₂排出量やガス代がどれくらい削減できるかを分かりやすく解説しています。

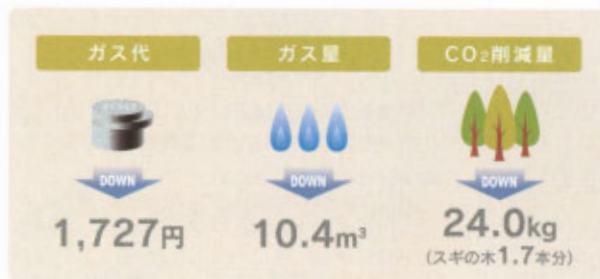
キッチンやお風呂などでできる、無駄のない、快適な暮らしにつながるちょっとした工夫をご提案することで、経済性だけでなく、温暖化の原因ともいわれるCO₂排出量の削減にお役立ていただきたいと考えています。



「キッチン編」「お風呂編」に分けて、地球にやさしいちょっとした工夫をご紹介します。

Plan 1 火加減は中火が最も省エネ

鍋底から炎がはみ出るのはエネルギーの無駄。炎がはみ出ないくらいの火加減が最も効率的。



1日3回×365日として算出(中火と強火の比較)



■20cmのやかんで18℃の水2ℓを沸かした場合

弱火	中火	強火
47分40秒 5.8円	14分30秒 4.9円	6分50秒 6.5円

「エコライフブック」より抜粋

静岡ガスの食育活動

当社では、次世代を担う子供たちに「食」の大切さを理解してもらう活動の一環として、「食育」をテーマとした料理教室や出張教育に取り組んでいます。

食べ物が食卓に届くまでの過程や食品の大切さを学習すると同時に、実際に料理を体験することで食への関心を一層高めてもらうことが目的です。実際に参加した子供たちからは、「自分がつくった料理は嫌いな野菜もおいしいね。」といった感想が聞こえるなど、その成果は着実に広がっています。

今後も地域との繋がりを深め、食育を推進しながら、おいしい料理を支える炎の大切さを継承していきます。



料理を通してエネルギーや環境保全の大切さを学びます

家庭用燃料電池フィールドテスト開始

2005年12月、(財)新エネルギー財団が実施する定置用燃料電池大規模実証事業に呼応して、静岡市内のお客さま宅に、家庭用燃料電池を設置し、フィールドテストを開始しました。今後3年間データを収集・分析し、実用化に向けた取り組みを進めていきます。

燃料電池は、都市ガスから水素を取り出し、空気中の酸素と化学反応させることで発電し、同時に発生する熱を利用し給湯も行うエネルギー効率の高いコージェネレーションシステムです。1次エネルギー消費量が従来のシステムに比べ約26%、CO₂の排出量も約40%削減可能となることから、地球温暖化対策の一つとして期待されています。



お客さま宅に設置された燃料電池「ライフエル」

美しさを極めたスタイル。 スイッチひとつでお料理上手に。



ピピッとできちゃう

ピピッとコンロ



温度調節機能

温度調節機能を使えば、揚げ物・炊飯・湯わかしなどが簡単に。火加減の難しい料理もこれでOK!



ガラスストッププレートでお手入れラクラク

熱や衝撃に強いガラスストッププレートは、油汚れもサッとひと拭き。



水なし両面焼グリル

上・下バーナーで、裏返さずに、きれいに焼き上げます。グリル皿に水を入れる必要もありません。



省エネタイプ 従来型

省エネ設計

熱効率を大幅にアップした省エネ設計バーナーでガス消費量を削減します。

グリル de クッキング

グリルは魚を焼くためだけではなく、
使い方次第で、料理の幅が広がります。

ハーブチキンロースト野菜添え

【作り方】①鶏もも肉は塩、コショウして、オリーブオイル(大さじ2杯)、ローズマリーに約1時間つけ置く②ブロッコリーは一口大に、またじゃがいもは皮をむき1/4に切って、塩ゆでしておきます。③ブロッコリー、じゃがいも、プチトマトに塩、コショウ、オリーブオイルを塗ります。④グリルに鶏肉と野菜を入れ、色良く焼きます。⑤レモンを添え、チャービルを飾ってでき上がり。

【材料2人分】・鶏もも肉…2枚 ・ローズマリー…大さじ1杯
・オリーブオイル…大さじ3杯 ・ブロッコリー…1/4個 ・じゃがいも…1個
・プチトマト…4個 ・レモン…1/2個 ・チャービル…2枝 ・塩、コショウ…適量

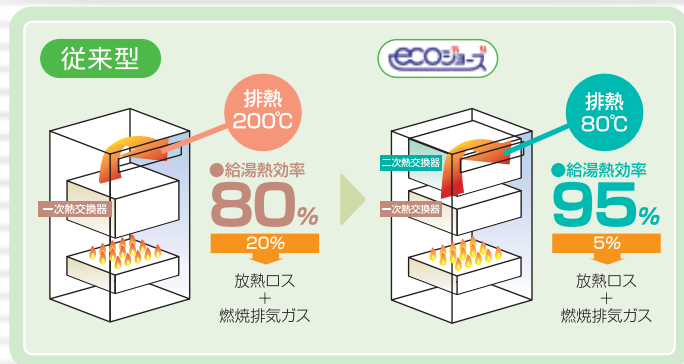


高効率の給湯器で、 環境にも家計にもやさしく。

◎排熱の再利用で95%^{※1}の給湯熱効率

これまでの家庭用給湯器では、使用するガスのうちの20%が放熱や排気ガスとして無駄になっていました。エコジョーズは、二次熱交換器を搭載し従来捨てていた約200℃の排気ガス中の熱を回収・再利用することで、給湯熱効率95%という高効率を実現した省エネ設計の給湯器です。

省エネ高効率給湯器



🌍 **環境にやさしい** ◎杉の木に例えると約**14.8本**分のCO₂吸収効果^{※2}

👛 **家計にやさしい** ◎ガス代が年間約**14,900円**おトク^{※3}

お得なガス料金契約

とく
エコ得プラン

家庭用高効率給湯・調理契約

エコジョーズと省エネガスコンロで

家中のガス料金がお得!

静岡ガスは“省エネ”を応援します!

エコジョーズと省エネガスコンロを使えば

家中のガス料金が **3%割引**

さらにガス暖房機(ガスファンヒーター・ガスストーブ)を使えば

冬期(12~3月)は **5%割引**

※1:機種により異なります。※2:CO₂換算/207.7kg ※3:ガス料金/一般契約料金、給湯熱効率95%で試算。

当期の業績

(金額は単位未満を切り捨てております)

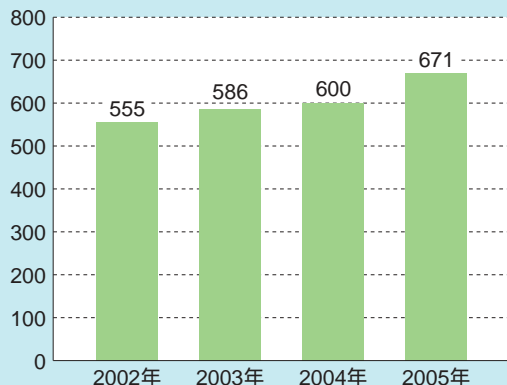
当期の売上高は、ガス販売量の増加や大型コージェネレーション設備工事の受注などにより、前期比11.9%増の67,144百万円となりました。

一方、2004年7月に完成した高压輸送幹線「第二

駿河幹線」の減価償却費を通期で計上したことや、下期に原料価格が上昇したことなどから、経常利益は前期比14.9%減の5,887百万円、当期純利益は14.6%減の3,189百万円となりました。

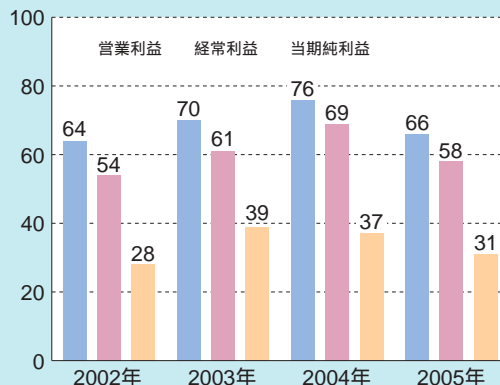
売上高

(単位：億円)



営業利益・経常利益・当期純利益

(単位：億円)



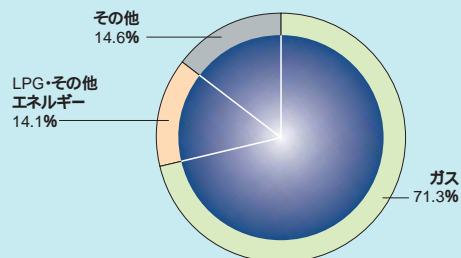
事業のセグメント

各セグメントに属する主要な事業内容は、以下のとおりです。

ガス	都市ガスの製造・供給・販売 LNGの販売
LPG・その他エネルギー	LPGの販売 オンサイト・エネルギーサービス
その他	ガス工事の施工、ガス機器の販売、 不動産の賃貸、住宅設備機器の販売・施工、 車両・事務機器等のリース

(注) 当期よりセグメント区分を変更したことに伴い、前期比の算出については、前期の金額を変更後のセグメントに組み替えた上で比較しております。

セグメント別売上高構成比



(注) 売上高の構成比は、外部顧客に対する売上高に基づいております。

各セグメントの業績

< ガス >

お客さま数は、グループ全体で当期中に4,505戸増加し、期末現在で337,620戸となりました。

ガス販売量は、前期比81百万m³(15.0%)増加の621百万m³となりました。用途別では、家庭用は、気温が全般的に低めに推移したことが寄与し、前期比2.9%増の101百万m³となりました。業務用は、大型商業施設の新規稼働や空調需要の開拓などにより、前期比5.5%増の73百万m³となりました。工業用は、ガスコージェネレーションシステムの導入やボイラー燃料の都市ガスへの転換による新規需要の開拓が順調に進み、前期比14.3%増の382百万m³となりました。卸供給は、卸供給先での熱量変更の進捗や需要増加により、前期比71.2%増の63百万m³となりました。

売上高は、2005年1月に実施した当社の小口部門でのガス料金引き下げの影響がありましたものの、ガス販売量の増加などにより、前期比10.6%増の48,347百万円となりました。

一方、2004年7月に完成した高圧輸送幹線「第二駿河幹線」の減価償却費を過期で計上したことなどから、営業利益は10.6%減の8,530百万円となりました。

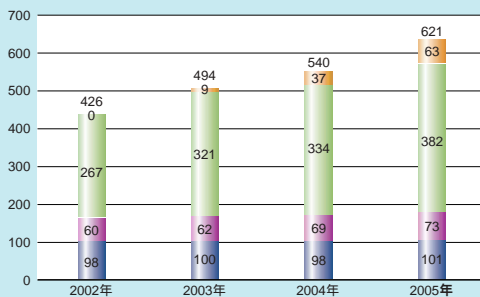
< LPG・その他エネルギー >

LPG販売が順調に推移したことなどに加え、2005年1月より「オンサイト・エネルギーサービス事業」(従来お客さまが自ら設置していたエネルギー設備をお客さまに代わって当社がお客さま事業所内に設置し、その設備を運転して発生した電気・熱エネルギーをお客さまに販売する事業)を開始したことにより、売上高は前期比15.4%増の9,744百万円、営業利益は4.6%増の302百万円となりました。

ガス販売量

(単位:百万m³)

■ 家庭用 ■ 業務用 ■ 工業用 ■ 卸供給



(注) 単位未満を切り捨てて表示しております。
当期にガスの標準熱量を1m³当たり46MJから45MJに引き下げたため、過年度を含めて、すべて1m³当たり45MJで表示しております。

< その他 >

設備工事、受注工事およびガス機器販売などのその他の事業は、大型設備工事の受注がありましたものの、第二駿河幹線が前期に完成したことにより受注工事売上が減少したため、売上高は前期比8.2%減の17,722百万円、営業利益は30.4%減の570百万円となりました。

(注) セグメント別の金額には、セグメント間の内部取引を含んでおります。

連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当期 (2005年12月31日現在)	前期 (2004年12月31日現在)
(資産の部)		
固定資産	94,087	92,738
1 有形固定資産	77,540	80,579
製造設備	22,884	24,750
供給設備	41,925	43,772
業務設備	3,744	4,447
附帯事業設備	6,324	6,577
休止設備	34	42
建設仮勘定	2,627	989
無形固定資産	1,004	1,052
2 投資その他の資産	15,542	11,106
流動資産	16,924	16,120
現金及び預金	8,636	5,614
受取手形及び売掛金	5,444	4,419
たな卸資産	1,102	2,863
その他	1,741	3,222
繰延資産	971	918
資産合計	111,983	109,777

point 1

高圧輸送幹線「第二駿河幹線」(2004年7月完成)や製造設備の償却が進みました。

point 2

株式市況の上昇により、保有株式の時価が増加しました。

(単位：百万円)

	当期 (2005年12月31日現在)	前期 (2004年12月31日現在)
(負債の部)		
固定負債	46,482	51,960
3 長期借入金	39,930	46,987
その他	6,551	4,972
流動負債	20,294	21,983
3 1年以内に期限到来の固定負債	11,994	12,256
買掛金	1,881	3,163
3 短期借入金	410	490
未払金	2,576	1,739
その他	3,431	4,333
引当金	631	839
負債合計	67,407	74,783
(少数株主持分)		
少数株主持分	4,231	3,706
(資本の部)		
4 資本金	6,279	4,183
資本剰余金	4,098	2,009
利益剰余金	24,440	21,806
その他有価証券評価差額金	5,541	3,296
自己株式	16	9
資本合計	40,344	31,287
負債、少数株主持分及び資本合計	111,983	109,777

point 3

借入金の返済が進み、有利子負債が7,399百万円減少しました。

point 4

増資により4,185百万円増加しました。

連結損益計算書

(単位：百万円)

	当期 (2005年1月1日 - 2005年12月31日)	前期 (2004年1月1日 - 2004年12月31日)
5 売上高	67,144	60,018
6 売上原価	38,158	30,843
売上総利益	28,985	29,175
7 供給販売費及び一般管理費	22,362	21,523
営業利益	6,622	7,651
営業外収益	355	385
営業外費用	1,091	1,117
経常利益	5,887	6,919
特別利益	323	329
特別損失	-	211
税金等調整前当期純利益	6,210	7,036
法人税、住民税及び事業税	2,360	2,796
法人税等調整額	85	168
少数株主利益	747	673
当期純利益	3,189	3,736

point 5 ガス販売量の増加や大型設備工事の受注などにより増収となりました。

point 6 下期に原料価格が上昇したことなどにより増加しました。

point 7 「第二駿河幹線」の償却費を通期で計上したことにより、減価償却費が増加しました。

連結剰余金計算書

(単位：百万円)

	当期 (2005年1月1日 - 2005年12月31日)	前期 (2004年1月1日 - 2004年12月31日)
(資本剰余金の部)		
資本剰余金期首残高	2,009	2,009
資本剰余金増加高	2,089	-
増資による新株の発行	2,089	-
資本剰余金期末残高	4,098	2,009
(利益剰余金の部)		
利益剰余金期首残高	21,806	18,661
利益剰余金増加高	3,189	3,736
当期純利益	3,189	3,736
利益剰余金減少高	555	591
配当金	494	530
役員賞与	60	61
利益剰余金期末残高	24,440	21,806

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	当期 (2005年1月1日 - 2005年12月31日)	前期 (2004年1月1日 - 2004年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
8 税金等調整前当期純利益	6,210	7,036
減価償却費	10,990	10,272
繰延資産の償却費	416	328
有形固定資産除却損	378	418
退職給付引当金の増減()額	134	77
ガス熱量変更引当金の増減()額	208	74
受取利息及び受取配当金	131	106
支払利息	968	1,075
有形固定資産売却損益()	84	141
売上債権の増()減額	1,017	414
たな卸資産の増()減額	1,768	343
仕入債務の増減()額	1,583	340
8 未払(未収)消費税等の増減額	1,083	628
その他	734	173
小計	19,660	18,496
利息及び配当金の受取額	131	106
利息の支払額	999	1,096
法人税等の支払額	2,751	3,336
8 営業活動によるキャッシュ・フロー合計	16,040	14,169

point 8

減価償却前利益がほぼ横ばいに推移し、消費税の還付などにより増加しました。

(単位：百万円)

	当期 (2005年1月1日 - 2005年12月31日)	前期 (2004年1月1日 - 2004年12月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
9 有形・無形固定資産の取得による支出	8,525	11,319
有形・無形固定資産の売却による収入	155	239
投資有価証券の取得による支出	7	10
投資有価証券の売却等による収入	36	143
繰延資産の取得による支出	469	197
その他	259	414
投資活動によるキャッシュ・フロー合計	9,069	10,729
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減()額	80	1,525
10 長期借入れによる収入	5,015	11,570
長期借入金の返済による支出	12,334	12,592
10 株式の発行による収入	4,185	-
配当金の支払額	495	529
少数株主への配当金の支払額	213	151
その他	6	3
財務活動によるキャッシュ・フロー合計	3,929	3,231
現金及び現金同等物の増減()額	3,042	208
現金及び現金同等物の期首残高	5,529	5,321
現金及び現金同等物の期末残高	8,572	5,529

point 9

「第二駿河幹線」工事が前期で終了したため、設備投資が減少しました。

point 10

増資を実施したため、金融機関からの借入調達が減少しました。

単体財務諸表

貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

	当期 (2005年12月31日現在)	前期 (2004年12月31日現在)
(資産の部)		
固定資産	68,406	63,690
有形固定資産	48,424	48,328
無形固定資産	764	832
投資その他の資産	19,218	14,530
流動資産	13,054	12,308
資産合計	81,460	75,999
(負債の部)		
固定負債	33,272	35,283
流動負債	16,235	16,532
負債合計	49,507	51,816
(資本の部)		
資本金	6,279	4,183
資本剰余金	4,098	2,009
利益剰余金	16,082	14,714
其他有価証券評価差額金	5,508	3,284
自己株式	16	9
資本合計	31,952	24,182
負債・資本合計	81,460	75,999

損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

	当期 (2005年1月1日 - 2005年12月31日)	前期 (2004年1月1日 - 2004年12月31日)
売上高	52,253	47,902
営業利益	2,394	3,275
経常利益	2,676	3,472
税引前当期純利益	2,693	3,462
当期純利益	1,901	2,322
前期繰越利益	576	577
当期末処分利益	2,230	2,653

利益処分

(単位:百万円)

	当期 (2005年1月1日 - 2005年12月31日)	前期 (2004年1月1日 - 2004年12月31日)
当期末処分利益	2,230	2,653
次のとおり処分いたしました。		
利益処分額	1,613	2,076
利益配当金	266	247
(1株につき普通配当 3円50銭)		(1株につき普通配当 3円50銭)
役員賞与金	38	39
特定資産圧縮積立金	9	10
別途積立金	1,300	1,780
次期繰越利益	616	576

- 2005年9月6日に247百万円(1株につき3円50銭)の中間配当を実施いたしました。
- 特定資産圧縮積立金は、租税特別措置法に基づくものであります。

株式の状況

(2005年12月31日現在)

会社が発行する株式の総数 240,000,000株

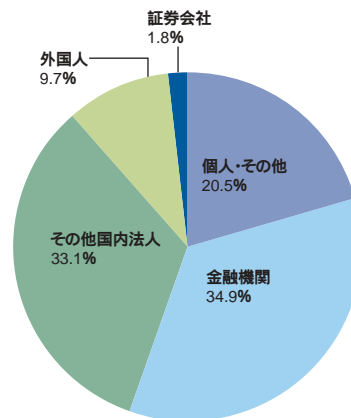
発行済株式の総数 76,192,950株

株主数 4,478名

大株主(上位10名)

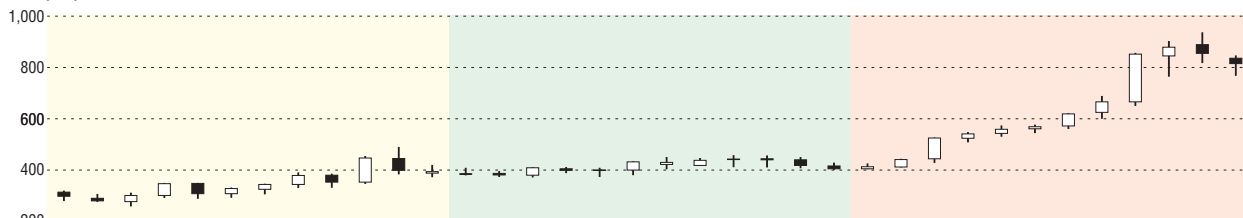
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
第一生命保険相互会社	3,987	5.23
三菱商事株式会社	3,768	4.94
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,720	4.88
日本スタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,238	4.24
東京電力株式会社	3,000	3.93
東京瓦斯株式会社	3,000	3.93
みずほ信託退職給付信託みずほコーポレート銀行口再信託受託者資産管理サービス信託	2,820	3.70
株式会社静岡銀行	2,682	3.52
鈴与株式会社	2,543	3.33
JFEエンジニアリング株式会社	1,836	2.40

所有者別株式分布状況

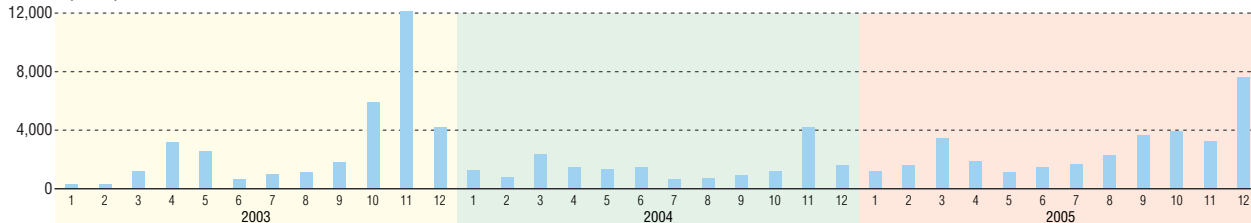


株価及び出来高の推移

株価(円)



出来高(千株)



会社概要

(2005年12月31日現在)

会社名 静岡瓦斯株式会社
設立 1910年(明治43年)4月16日
資本金 6,279百万円
従業員数 単体：665名 連結：1,169名

事業所

本社 静岡市駿河区八幡1-5-38
静岡支店 静岡市駿河区八幡1-6-1
清水支店 静岡市清水区江尻台町22-33
富士支店 富士市荒田島町10-52
沼津支店 沼津市西条町17-6
三島支店 三島市清住町2-8

役員(2006年3月30日現在)

代表取締役会長 大石 司朗
代表取締役社長 岩崎 清悟
常務取締役 石川 順哉 澤村 潔
浅井 一省 森田 和人
取締役 佐塚 一仁 宮坂 広志
曾根 真人 戸野谷 宏
杉山 寛 前野 克己
遠藤 正和 宮村 惣三郎
松浦 康男
常勤監査役 上野 健二郎
監査役 加藤 明德 角谷 晃
野末 寿一

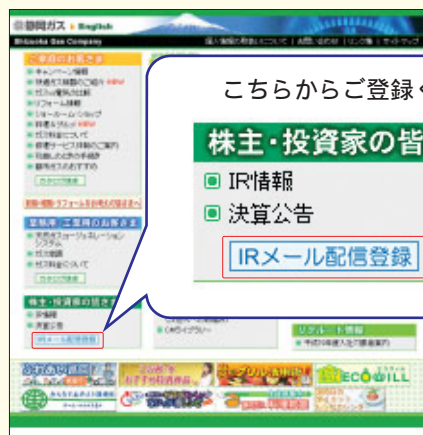
IR情報配信サービスのご案内

当社では、決算や販売量などのニュースリリースをeメールにより無料でご案内するIR情報配信サービスを行っています。

お申込は、当社ホームページ(下記参照)にアクセスした後、画面左下の「IRメール配信登録」をクリックして専用ページよりご登録ください。

静岡ガスホームページ

<http://www.shizuokagas.co.jp/>



株主メモ

決算期	毎年12月31日
定時株主総会	毎年3月
配当金受領株主 確定日	利益配当金 毎年12月31日 中間配当金 毎年6月30日
名義書換代理人	中央三井信託銀行株式会社 〒105-8574 東京都港区芝三丁目33番1号
事務取扱所	中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
取次所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店
決算公告掲載	静岡ガスホームページに掲載 http://www.shizuokagas.co.jp/html/kabu/koukoku.html
その他の公告掲載	日本経済新聞
1単元の株式数	1,000株
証券コード	9543

お知らせ

株式に関するお問い合わせ

住所変更、単元未満株式の買取請求、名義書換などの株式に関する手続きは中央三井信託銀行でお取り扱いしていますので、下記までお問い合わせください。

中央三井信託銀行 お問い合わせ先
各種手続き用紙のご請求
フリーダイヤル 0120 - 87 - 2031
URL http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html
その他のお問い合わせ
フリーダイヤル 0120 - 78 - 2031

郵便貯金口座配当金受取サービス

配当金のお受け取りは、銀行口座に加え、郵便貯金口座（通常貯金口座）へのお振込みによるお受け取りが可能です。ご希望の株主さまは、左記の中央三井信託銀行まで、配当金振込指定書をご請求の上、お申し込みください。



静岡ガス株式会社

〒422-8688 静岡市駿河区八幡一丁目5番38号
TEL 054-284-4141(代表)
<http://www.shizuokagas.co.jp/>

R100
古紙配合率100%再生紙を使用